

中学生たちの居場所に〈軽食支援〉を

NPO子ども福祉研究所[※]が運営する「山田町ゾンタハウス」(岩手県下閉伊郡山田町)。ゾンタハウスは、学校帰りの中学生が立ち寄って軽食を食べ、学習を行なうスペースで2011年9月に開所しました。ゾンタハウスの取り組みについてご紹介します。



教え合いながら勉強する子どもたち。

●子どもたちに、勉強ができる居場所を

日が落ちてあたりがすっかり暗くなった頃、お腹をすかせた中学生たちが「山田町ゾンタハウス」(以下、ゾンタハウス)に集まってきます。ゾンタハウスは、学校帰りの中学生が立ち寄ってパンなどの軽食を食べ、宿題や家庭学習を行なうスペースです。

山田町の小・中学校には給食がなかったため、代表の竹内範子さんは、「被災したご家庭の中には、住まいや仕事のことで落ち着かず、子どもたちの食事まで気が回らない方もいらっしゃいました」と言い、震災後の子どもたちの栄養状態がとても心配だったとのこと。

当初は給食事業を目指したものの諸事情により断念。方向転換して考え出したのが、中学生の居場所づくりでした。「小学生には学童保育がありますが、中学生には学校と仮設



「腹が減っては、戦ができません！」
まずは、軽食でお腹を満たす。

住宅しかありません。仮設住宅は狭くて落ち着いて勉強できないので、ちょっとした学習ができる場所をつくらうと思いました」(竹内さん)

地元の雇用の受け皿だった水産加工場が軒並み津波で流されたため、「山田町の将来をつくっていくため、今まで以上に学力の底上げが大切だ」という竹内さんの切実な思いもその背景にあります。

●各団体からの支えで運営

ゾンタハウスは数多くの企業・団体から支援を受けています。(株)学研教育出版や東京書籍(株)などは参考書や問題集を寄贈、コープとうきょうも、昨年、ガスエアコンを贈り、大変喜ばれました。

岩手県生協連では、育ち盛りの中学生のための軽食支援のコーディネートを行なっています。軽食支援は、日本ユニセフ協会からの支援金で行なわれていますが、その支援期限が、12月末に迫ってきました。同生協連専務理事の吉田敏恵さんは、2013年1月以降の軽食・おやつ費用の支援を各方面に呼び掛けています。吉田専務は、「親への依存から自立へと移りゆく中学生は微妙な年頃です。だからこそ温かな気持ちをもつ大人たちがさまざまなかたちで支えることは、彼らの社会性を

育むことにもつながるはず」と支援の重要性を強調しています。

自習室に目を転じると、分からないところを相談しながら真剣に勉強していたはずなのに、いつの間にか友だちとじゃれて笑い合う中学生たちの姿がありました。中学3年生はこれから本格的な受験準備に入ります。山田町の未来を担う子どもたちは、前を向いて、一步一步進んでいます。

※ 子どもが生き生きと成長できる社会づくりを目指し、大学の研究者や児童福祉施設職員、自治体職員や子どものために活動している人々が集まって、2005年6月より活動しているNPO団体。

子どもたちが安心して勉強できる環境づくりのため、岩手県生協連は、軽食・おやつ提供のための費用180万円の支援を呼び掛けています。

支援期間：2013年1月～2014年3月
内訳：1ヵ月12万円×15ヵ月＝180万円
問い合わせ先：岩手県生協連 専務理事 吉田 敏恵さん

TEL：019-684-2225

「可能な金額でかまいませんので、ご支援よろしくお願いたします」



いわて生協より、サンドイッチにはさむ食材やトーストに塗るマーガリン、ジャム、飲み物全般を購入している。